



チリ

34

登録基準

文化遺産 i, iii, v

所在地
チリ / バルパライソ州

登録年
1995



輝ける偉大な島に残るモアイ像

ラパ・ヌイ国立公園

登録範囲 南太平洋、チリの海岸から西へ約 3700km に位置する面積 119km² の島



●モアイ像

孤島に立つ巨大な石像

モアイ像で有名なイースター島は、チリの海岸から西へ約 3700km、タヒチから東へ約 4000km 離れた絶海の孤島です。このような地理的条件から、島には外部からの影響を受けない、石像彫刻と石造建築に代表される独創的で壮大な文化が育ちました。島は先住民の言葉で「輝ける偉大な島」を意味する「ラパ・ヌイ」と名づけられました。文化の担い手となったのは、4～5世紀にポリネシアから来た長耳族と呼ばれる部族です。モアイ像は長耳族が自分たちの祖先を祀るために建造したものです。島には 887 体の像が確認され、その多くが島を守るように、海を背にして立っています。大きいものは高さ 21m 近く、重さ数十 t にもなります。

像の多くは島内のラノ・ララク火山山麓の石切り場で、軟らかい凝灰岩を用いて造られ、海岸沿いにある「アフ」と呼ばれる祭壇まで運ばれました。石切り場からアフまでの距離は数 km から 20km。このような長い距離を、巨大なモアイ像をどのようにして運んだのかは、いまだに解明されていません。石切り場

には今も 300 体近くのモアイ像が未完のまま放置されています。

長耳族と短耳族との争い

長耳族から遅れること約 800 年、12 世紀初頭に短耳族が島に移住して来ます。しばらく 2 つの部族は平和に共存していました。ところが、16 世紀になると島の人口増加、食糧不足のため 2 つの部族間で相手のモアイ像を倒し合う「モアイ倒し闘争(フリ・モアイ)」が起こり、モアイは次第に造られなくなりました。この闘争で倒され、岩の塊と化したままのモアイ像が、今でも島のあちこちで見られます。

19 世紀半ばにはペルーの海賊船が、約 1000 名の島民を奴隷として連れ去るという事件が起こります。本土との接触は天然痘や結核などの伝染病を島にもたらし、島の人口は激減、文化も急速に衰退していきました。

マケマケ

ラパ・ヌイの島民は島の創造神「マケマケ」に対する信仰も持っていました。マケマケの化身は頭が鳥、体が人間の鳥人です。島の南西端オロンゴ岬には、鳥人を描いた像や線画、マケマケ信仰にまつわる祭事を行った建物跡などが残されています。



◎次の各問の解答として最も適切なものをア～エから選び、○で囲んでください。

① 右の図で、ラバ・ヌイはどの位置にありますか。

② ラバ・ヌイとはどのような意味ですか。

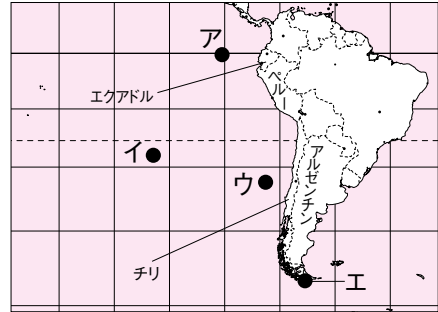
- ア 絶海の孤島 イ 輝ける偉大な島
- ウ 火山で囲まれた島 エ 神の宿る島

③ モアイ像に島民はどのような思いを込めましたか。

- ア 絶対神への礼拝 イ 雨乞いなど、天への祈り
- ウ 争いの勝利 エ 祖先を祀る気持ち

④ 島の文化が衰退していった原因として、当てはまらないものはどれですか。

- ア 伝染病の蔓延 イ 部族間の争い ウ 地震などの天変地異 エ 海賊の強奪



◎次の各問の空欄にあてはまる最も適切な語句を下の語群から選び、記入してください。

⑤ モアイ像を作ったのは4～5世紀に (a) から移住してきた (b) です。

a _____、 b _____

⑥ 石切り場で作られたモアイ像は、海岸沿いの () と呼ばれる祭壇へ運ばれました。

⑦ 島の創造神マケマケの化身と考えられた () の像や線画が島に残っています。

語群： モアイ 長耳族 ポリネシア ペルー本土
鳥人 アフ フリ・モアイ クレオール人



海から次々とやってくる災難

- ① 南アメリカ大陸から3700kmも離れた絶海の孤島です。
- ② 名づけた人々の、島への尊敬の気持ちが感じられます。
- ③ 彼らは誰が村を守ってくれると考えたのでしょうか。
- ④ 人との接触で文化は衰退しました。
- ⑤ a 西の海から、カヌーに乗ってやってきました。
b 長耳族が移住してから800年後にやってきた民族は短耳族です。
- ⑦ 頭と体が、ちぐはぐな姿をしていました。



魔力を放つモアイ像の目

私たちが写真で見えるモアイ像の目は、深く窪んだ悲しそうなものです。しかし、建造当時は白サンゴ、黒曜石、赤い安山岩などで作られた眼球が入っていました。眼球は窪みにはめ込んだだけで、傾斜で落ちないように工夫されていました。その目からは不思議な魔力「Mana」が発せられ、村人たちを守っていたと伝えられています。モアイ倒し闘争のせいか、あるいは魔力を恐れたせいか、ほとんどの像の眼球は現在取り外されています。そしてかつて眼球だった石は、島内の博物館に展示されています。

ほかにも石切り場で造られたあと、像自らがアフまで歩いていったなど、島の人たちにとってモアイが不思議な力を持つ存在であったことをあらかず伝説が残されています。